

信州の食品産業クラスター「発酵バレーNAGANO」によるブランド価値創出戦略
—「民藝」および「学び」の地域特性を活かした施策提案—

【 要 旨 】

ソーシャル・イノベーション研究科
ソーシャル・イノベーション専攻
2025年3月修了
林 織史

【要旨】

本研究は、発酵バレーNAGANO が国際的魅力的なクラスターとなるための今後の発展に向けた施策提案を目的としている。発酵バレーNAGANO とは、2023年に発足した長野県の発酵食品産業を中心とした産官学連携コンソーシアムである。本研究では発酵バレーNAGANO を主題として、長野県の特徴である発酵食品産業を中心とした地域活性化の取り組みについて、主としてクラスター理論の観点から批判的考察を加え、今後の発展に向けた施策を提案した。具体的には、国内外のクラスター政策の比較や事例研究を踏まえつつ、組織論および戦略論の観点から現状を分析し、当組織が国際的魅力的なクラスターとなるための新たなブランド戦略を導き出した。また、実際の組織の状況を踏まえてこの新しい戦略を応用した際に、どのような施策が効果的かを提案し、今後の指針として示した。

クラスター理論とその実践について、本研究では社会ネットワークに関する考察と、内発的地域イノベーションの論考を主な先行研究として用いた。他の研究ではクラスター発展の成功要因の議論が異なるものの、共通項として地域産業クラスターの発展にはその地域独自の無形資産の活用が鍵になると主張している。これらの視点から、発酵バレーNAGANO の今後の発展を考えるにあたっては、長野県固有の無形資産について理解し、クラスターに活かすための分析が必要であると考え、現状分析を進めた。

その結果、発酵バレーNAGANO と深く関連する信州の地域特性として、要素が二つ見出された。一つ目は「民藝」という暮らしの哲学であり、二つ目は「学びの地域」としての歴史社会的風土である。これらの地域特性を活用することで発酵食品クラスターの発展に貢献できる可能性について、応用を試みたものを後半の施策提言としてまとめた。

提案施策は、①「民藝」という新たなブランド軸を中心に据えた組織理念、②「学びの地域」という無形資産を活かした組織戦略、③国内外の一般市民をも巻き込んだ組織形態への転換、の3点である。本研究では、この3点を模式図によって視覚的なイメージで表し、活動の方向性を示す形とした。なお、いくつかの施策に関しては発酵食品製造に深く関わるメタファーをも用いて表現した点に、本稿の独自性がある。

最後に、これらの施策を実際に進めていく方法についても簡単に整理した。すなわち、既存の短期および中長期の計画を活かしつつ、新たな視点で優先的に進めるべき取り組みに焦点を当て、その戦略的な意義と発展性を明らかにした。なお、具体的な組織運営状況を詳らかにできない制約もあり、実践計画という点ではあくまで青写真にとどまる内容ではあるが、経営上のリスクを抑えた検証方法を提示することで今後の実践につなげる提言とした。